



航空機ボディパーツ製造金型



海洋鋼構造物

2008年3月期中間決算説明会

2007.11.27

NIPPON YAKIN

日本冶金工業株式会社

1. 2008年3月期中間決算サマリー

2. 高機能材部門の販売状況

〈参考〉主要データ(連結ベース)

2008年3月期中間決算のハイライト

➤ 売上高は前年同期比で増収、増益を確保

- LMEニッケル価格が5月に史上最高値をつけてから急落
- ニッケル価格の急騰や先安感からの買い控えにより、販売数量は8月以降伸び悩み
- 原料サーチャージ制の実施と収益性のある製品への傾斜・注力により、売上高は増勢を維持
- コストダウンの取り組みと販売単価への転嫁の時間的ずれにより収益は堅調に推移
- 07年度下期に発生が予想される原材料コスト64億円を上期に前倒しで計上

➤ 通期業績予想を前回予想から小幅下方修正

➤ 中間配当5円、年間配当予想10円

- LMEニッケル価格は8月に底打ちの兆しも、需要は依然として活発さを欠いた状態
- 需要に見合った供給と原料価格に見合った適正製品価格の実施を基本とした運営により、下期に予想される減収の影響を極小化

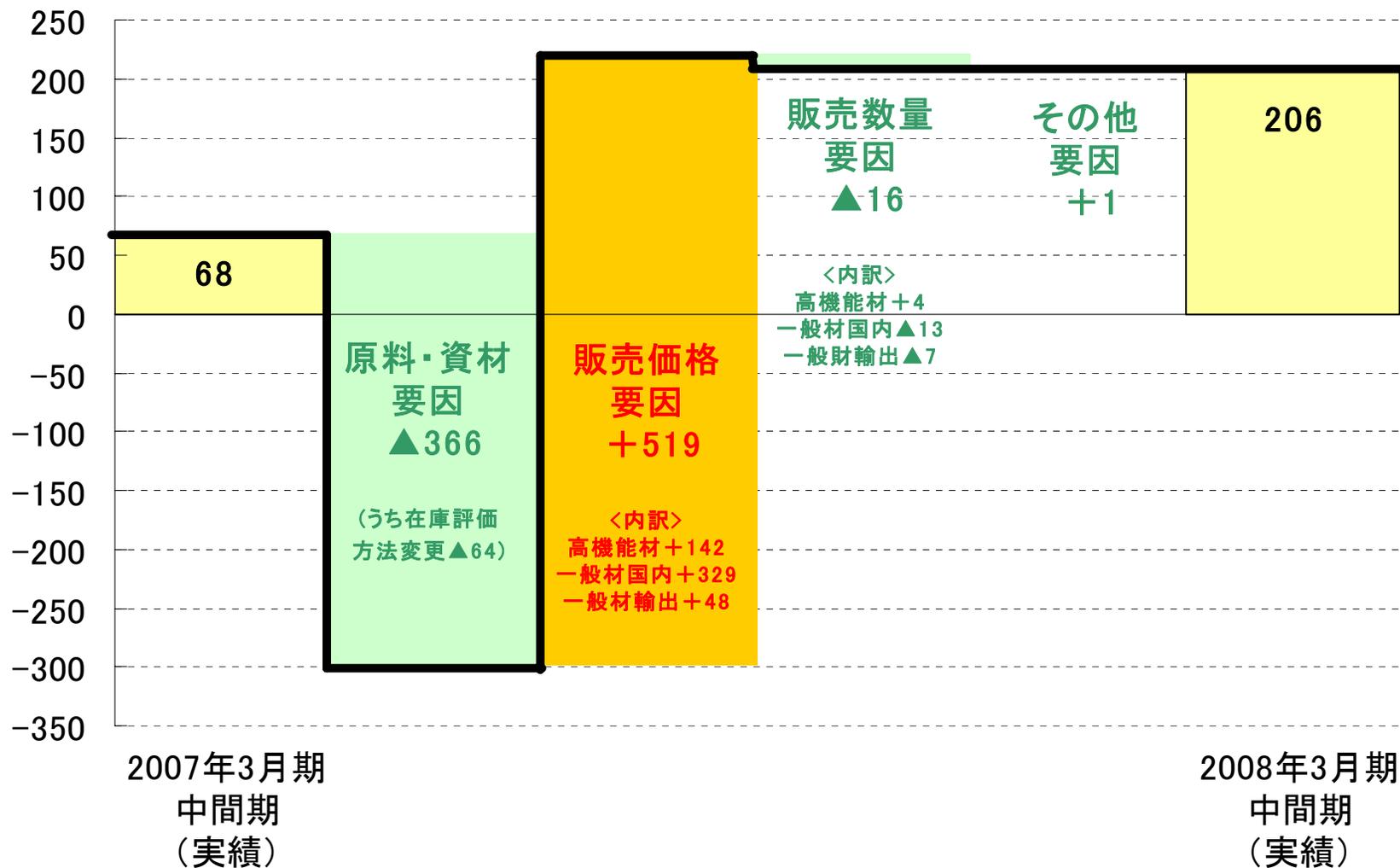
損益計算書 連結 概要

	2007年3月期 中間実績 (億円)	2008年3月期 中間実績 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)	(ご参考) 2007年3月期 通期実績 (億円)
売上高	823	1,299	476	57.9	1,949
営業利益	68	206	138	203.7	268
経常利益	59	199	140	236.6	239
中間(当期)純利益	48	114	66	137.0	153
ROA(%)	8.1	20.3			15.0
自己資本比率(%)	25.4	31.2			27.8
高機能材部門 売上高比率(%)	26.0	29.7			27.7

(注)ROAは年換算:(営業利益+受取利息・受取配当金)÷期初・期末平均総資本×2

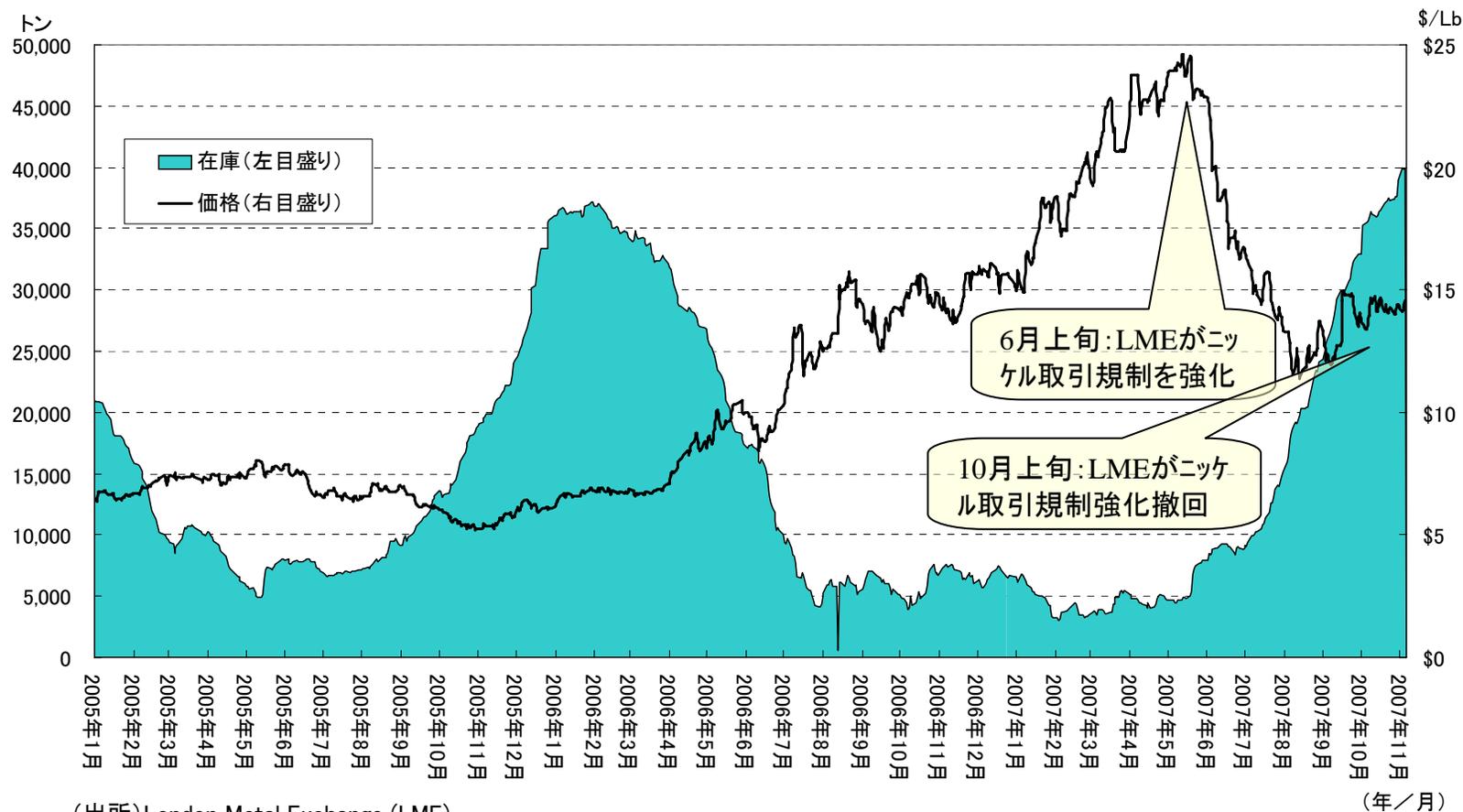
(ご参考)ニッケルLME期中平均価格:2006年度中間期11.13US\$/Lb、2007年度中間期17.75US\$/Lb。

営業利益変動の要因分析(上期比較:億円)



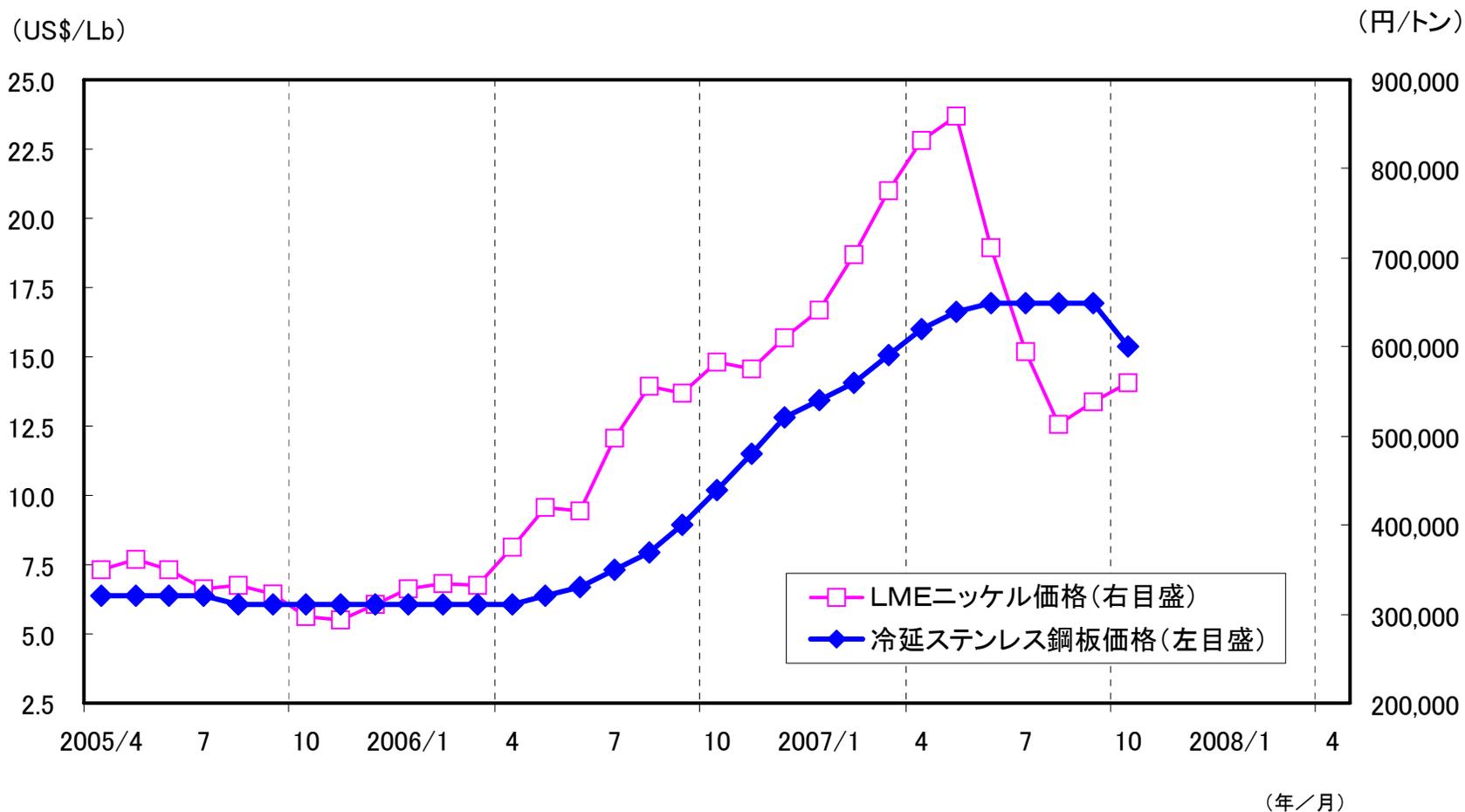
ニッケル価格と在庫(日次)の推移

- 5月に市場最高値をつけたがLMEの取引規制強化をきっかけに8月まで急落
- 需要の変動に合わせて夏場から減産へ



ニッケル・ステンレス価格(月次)の推移

➤ ステンレス製品価格はニッケル価格に遅れて変動



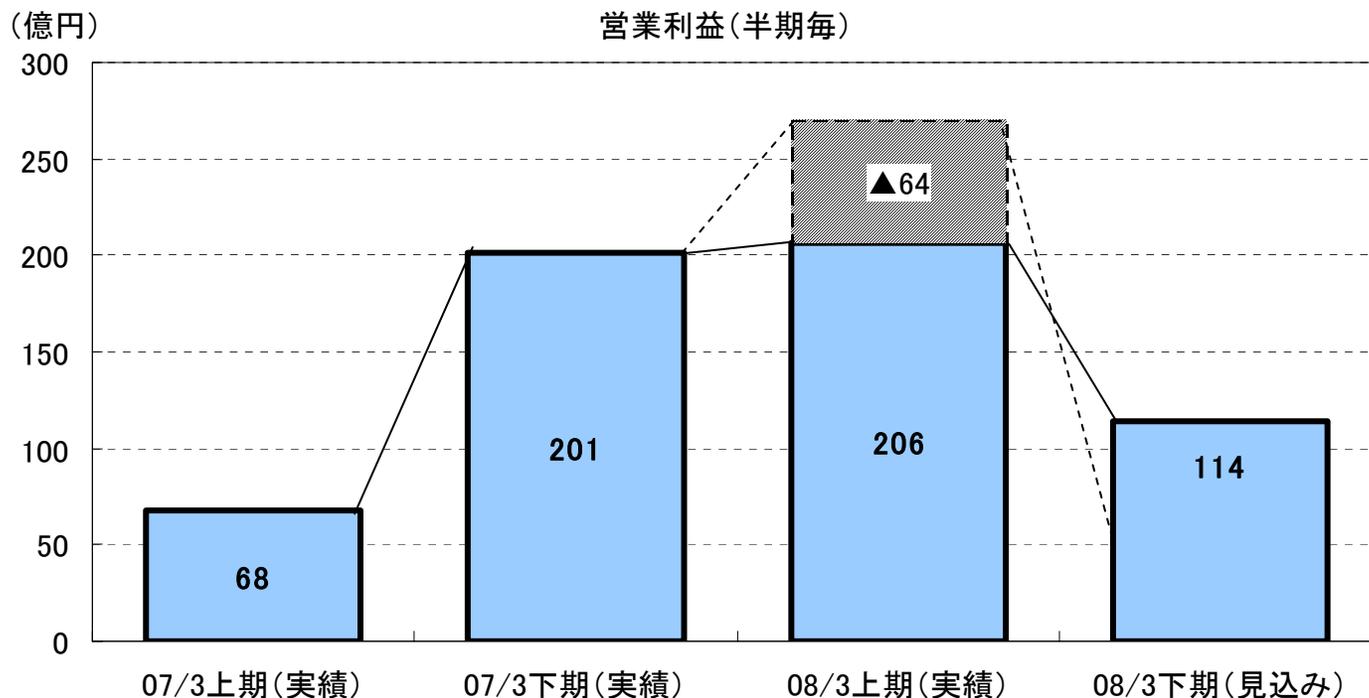
(注1) 冷延ステンレス鋼板: 東京SUS304種18-8、2~3ミリ。
(出所) 鉄鋼新聞。

在庫評価法の変更に伴う営業利益への影響

- ▶ 財務健全化を目的に「棚卸資産の評価に関する会計基準」を前倒し適用
- ▶ 08年3月期下期に発生する原材料コストのうち64億円を上期に計上

○棚卸資産の評価に関する会計基準(2009年3月期決算より強制適用)

- ・通常の販売目的で保有する棚卸資産は、原則として取得簿価で評価する。
- ・期末における正味売却価額が取得原価よりも下落している場合は、正味売却価額をもって評価額とする。



貸借対照表 連結 概要

▶ ニッケル価格上昇に伴い棚卸資産が増加

	2007年3月末 (億円)	2007年9月末 (億円)	前期比増減 (億円)	2007年3月末 構成比 (%)	2007年9月末 構成比 (%)
現金・預金	88	71	▲ 17	4.5	3.4
売掛債権	435	430	▲ 5	22.2	20.6
棚卸資産	509	610	101	25.9	29.3
その他流動資産	26	48	22	1.3	2.3
固定資産	902	925	23	46.0	44.4
【資産合計】	1,960	2,084	124	100.0	100.0
借入金・社債	730	767	37	37.2	36.8
その他負債	679	661	▲ 18	34.6	31.7
【負債計】	1,409	1,428	19	71.9	68.5
【純資産計】	551	656	105	28.1	31.5

キャッシュフロー計算書 連結 概要

➤ 棚卸資産の増加を主因に営業キャッシュフローが前年比減少

	2007年3月期 中間実績 (億円)	2008年3月期 中間実績 (億円)	前年比 (億円)	(ご参考) 2007年3月期 通期実績 (億円)
営業活動によるキャッシュフロー	40	0	▲ 40	55
税金等調整前中間(当期)純利益	56	198	142	233
減価償却費	20	25	5	42
売上債権の増加額(△)又は減少額	▲ 16	5	21	▲ 142
たな卸資産の増加額(△)又は減少額	▲ 43	▲ 101	▲ 58	▲ 149
仕入債務及び前受金の増加額又は減少額(△)	41	▲ 28	▲ 69	94
法人税等の支払額	▲ 21	▲ 86	▲ 65	▲ 36
その他	3	▲ 13	▲ 16	14
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 26	▲ 43	▲ 17	▲ 45
有形固定資産の取得による支出	▲ 20	▲ 35	▲ 15	▲ 43
フリー・キャッシュフロー	14	▲ 43	▲ 57	10
財務活動によるキャッシュフロー	16	26	10	10
短期借入金の純増加額又は純減少額(△)	38	51	13	173
長期借入金の返済による支出	▲ 20	▲ 21	▲ 1	▲ 41
現金及び現金同等物の増減	30	▲ 17	▲ 47	22

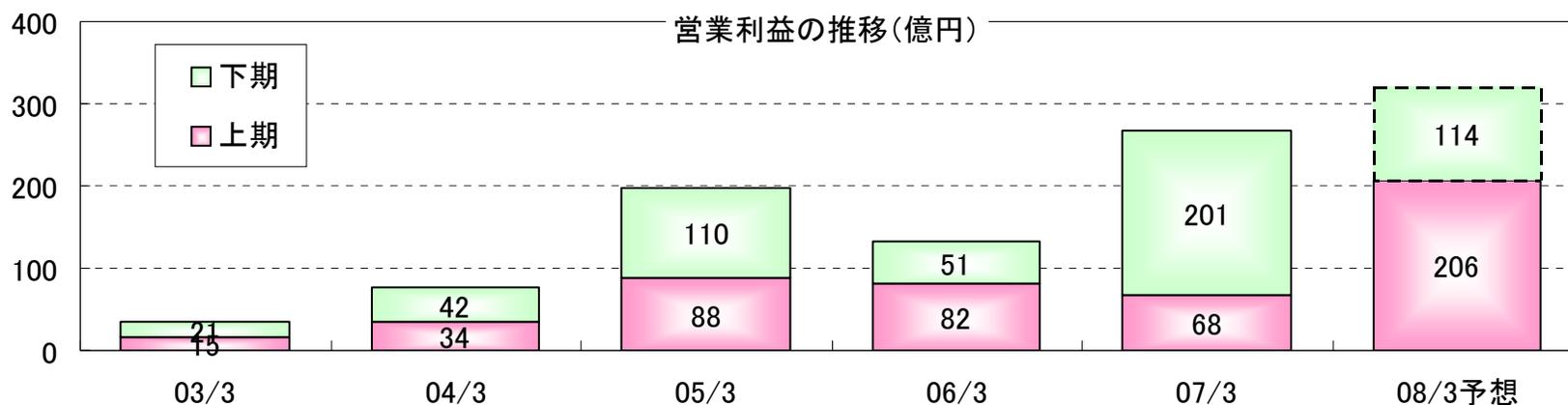
2008年3月期連結業績予想

▶ 売上・利益ともに前回予想を小幅ながら下方修正

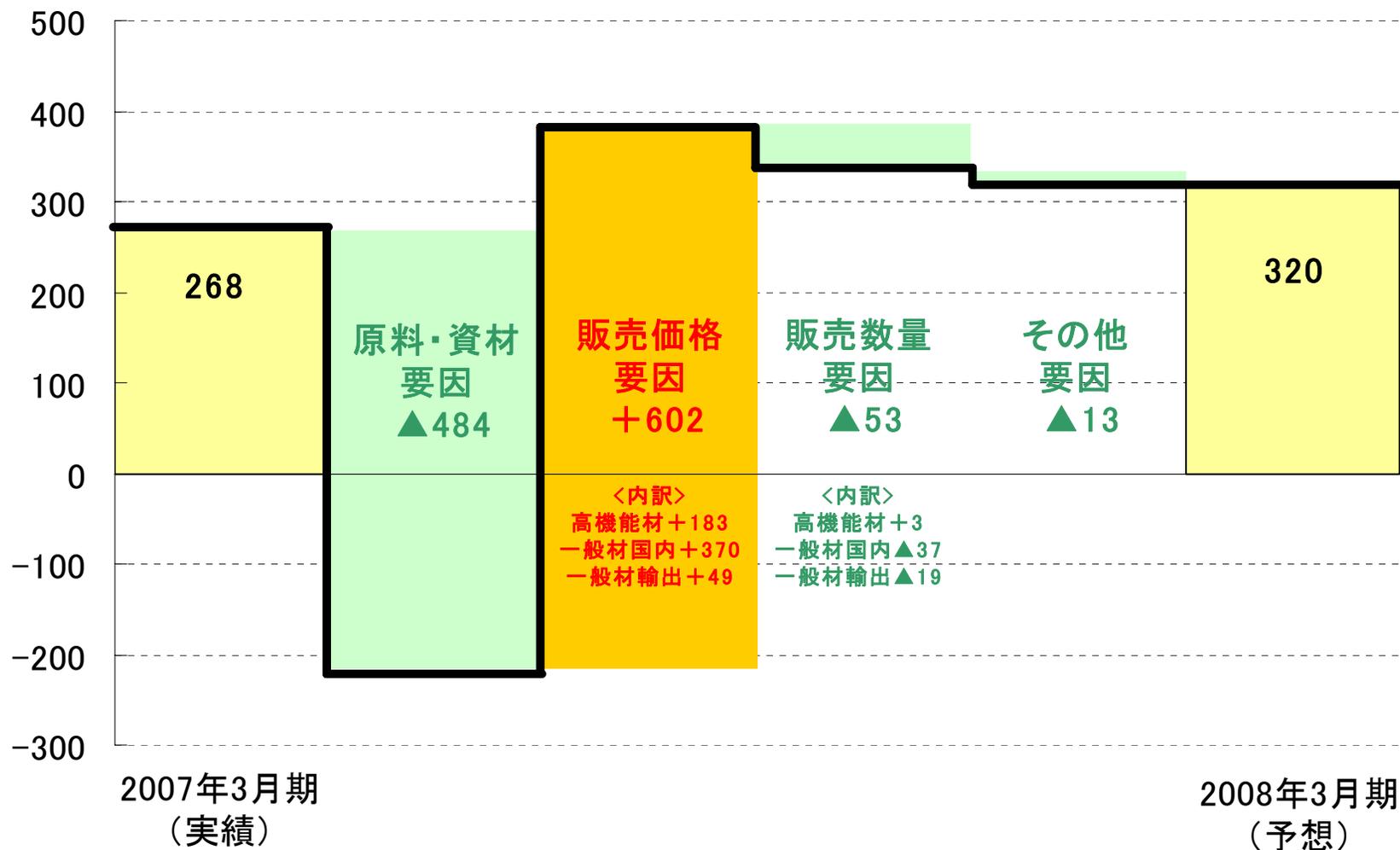
	2007年3月期	2008年3月期				中期経営計画 2008年3月期 (億円)
	通期実績 (億円)	前回予想 (億円)	今回予想 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)	
売上高	1,949	2,560	2,370	421	21.6	1,509
営業利益	268	330	320	52	19.2	116
経常利益	239	315	300	61	25.5	87
当期純利益	153	180	175	22	14.5	55

(注) 2007年3月期予想: 前回2007年5月15日時点、今回2007年11月13日時点。

(前提) 2008年3月期下期ニッケルLME期中平均価格: 14US\$/Lb、為替レート115円。

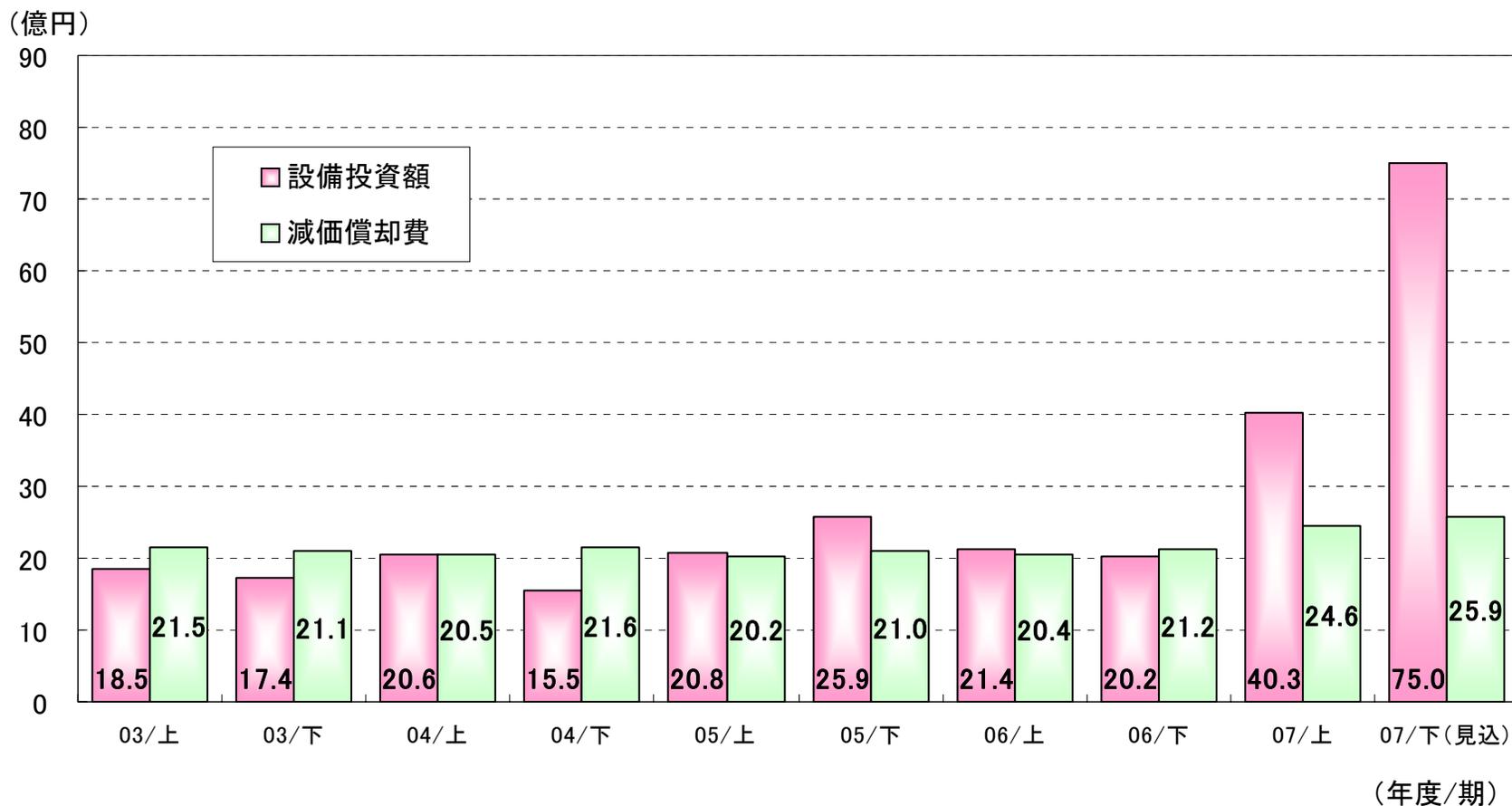


営業利益変動の要因分析(前期比較:億円)



設備投資(連結ベース)

- ▶ 2006年度までは原則として減価償却額以下に投資規模を限定
- ▶ 2007年度は高機能材対応のために投資規模を拡大



配当政策について

▶ 配当政策の基本方針

事業基盤の整備に必要な内部留保とのバランスに配慮しつつ、安定的な利益配分を行う

▶ 2008年3月期は中間配当を実施

普通株式1株当たり・・・5円

▶ 2008年3月期の配当予想

普通株式1株当たり・・・通期で10円

中期経営計画数値の実績・目標

▶ 高機能材部門売上高比率以外の数値目標は前倒しで達成

	05年3月期 (実績)	06年3月期 (実績)	07年3月期 (実績)	08年3月期 中間期 (実績)	(%) 08年3月期 (中計)
高機能材部門売上高比率	32.2	24.6	27.7	29.7	50.0
ROA(連結ベース)	12.2	8.1	15.0	20.3	7.0
自己資本比率(連結ベース)	20.3	24.2	27.8	31.2	30.0

(注)ROA=(営業利益+受取利息・受取配当金)／期初・期末平均総資本、中間期は年換算のため×2。

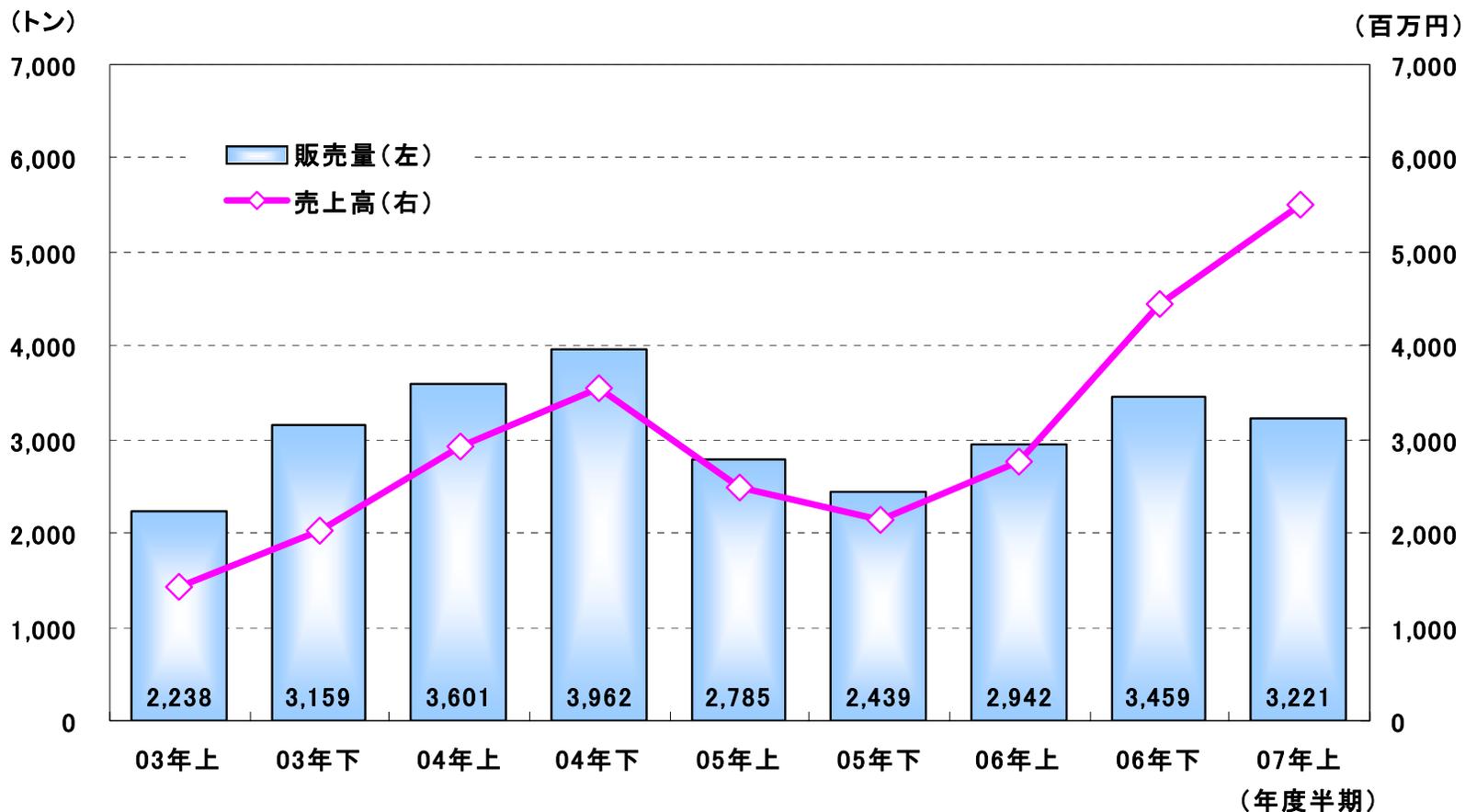
1. 2008年3月期中間決算サマリー

2. 高機能材部門の販売状況

〈参考〉主要データ(連結ベース)

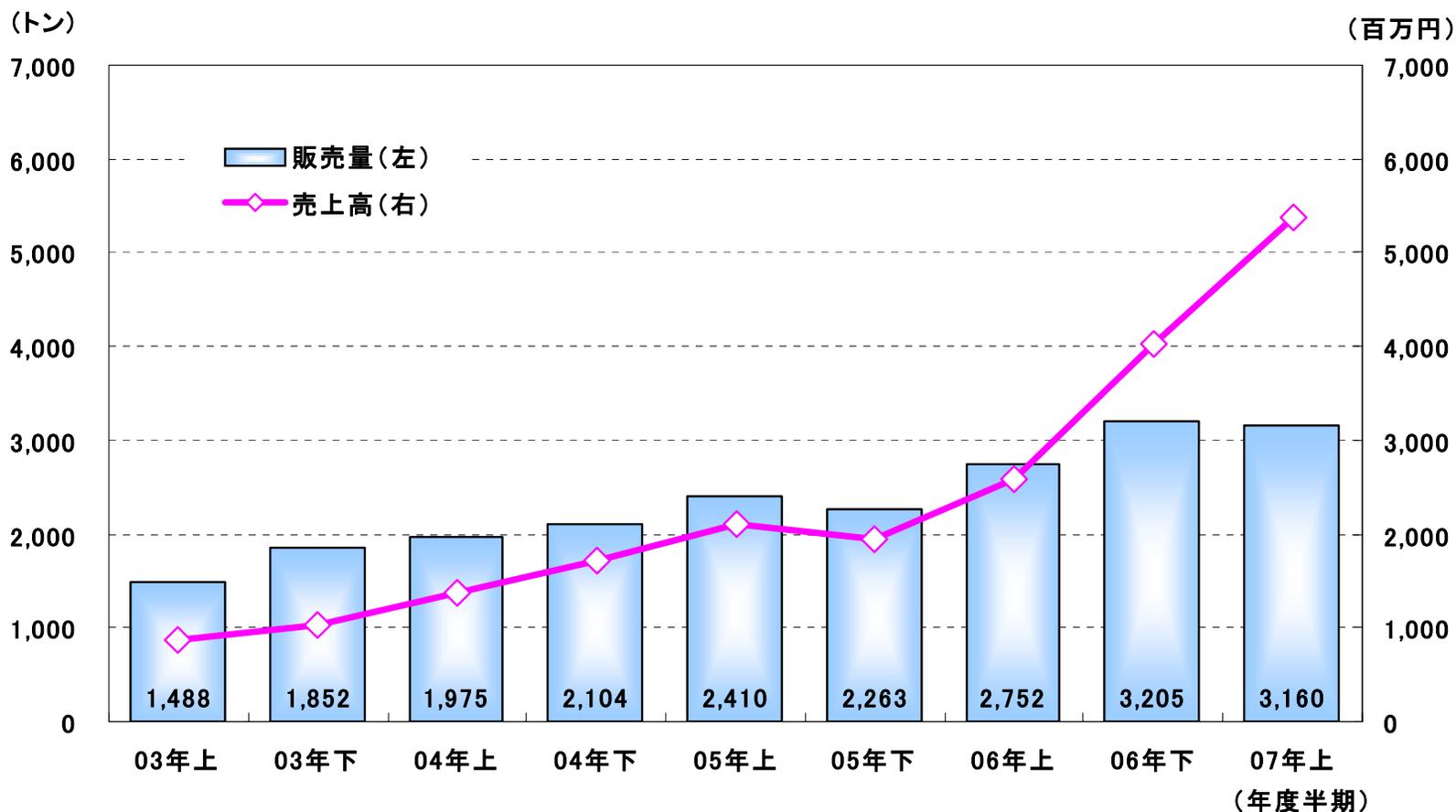
販売量及び売上高 《高機能材合計～月平均》

- ▶ 2005年度以降は耐食材・耐熱材市場への営業展開などにより売上高が回復
- ▶ 2007年度上期は販売数量が微減となったものの売上高は続伸



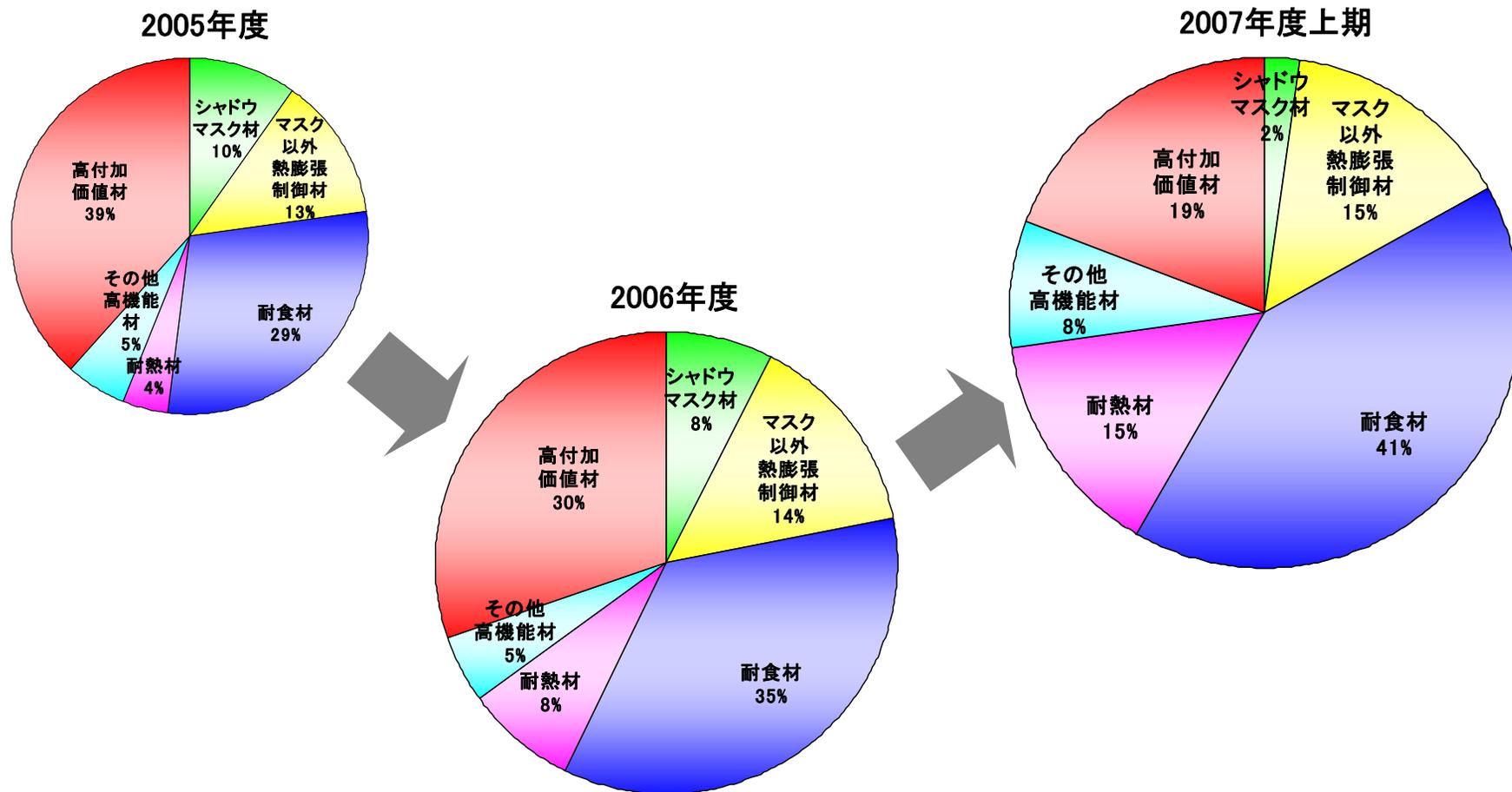
販売量及び売上高 《シャドウマスクを除く高機能材～月平均》

- ▶ ボリュームと成長性のある海外市場に重点を置いた販売戦略が奏功
- ▶ 2007年度上期の販売量もほぼ横這い、売上高は高い伸びが続く



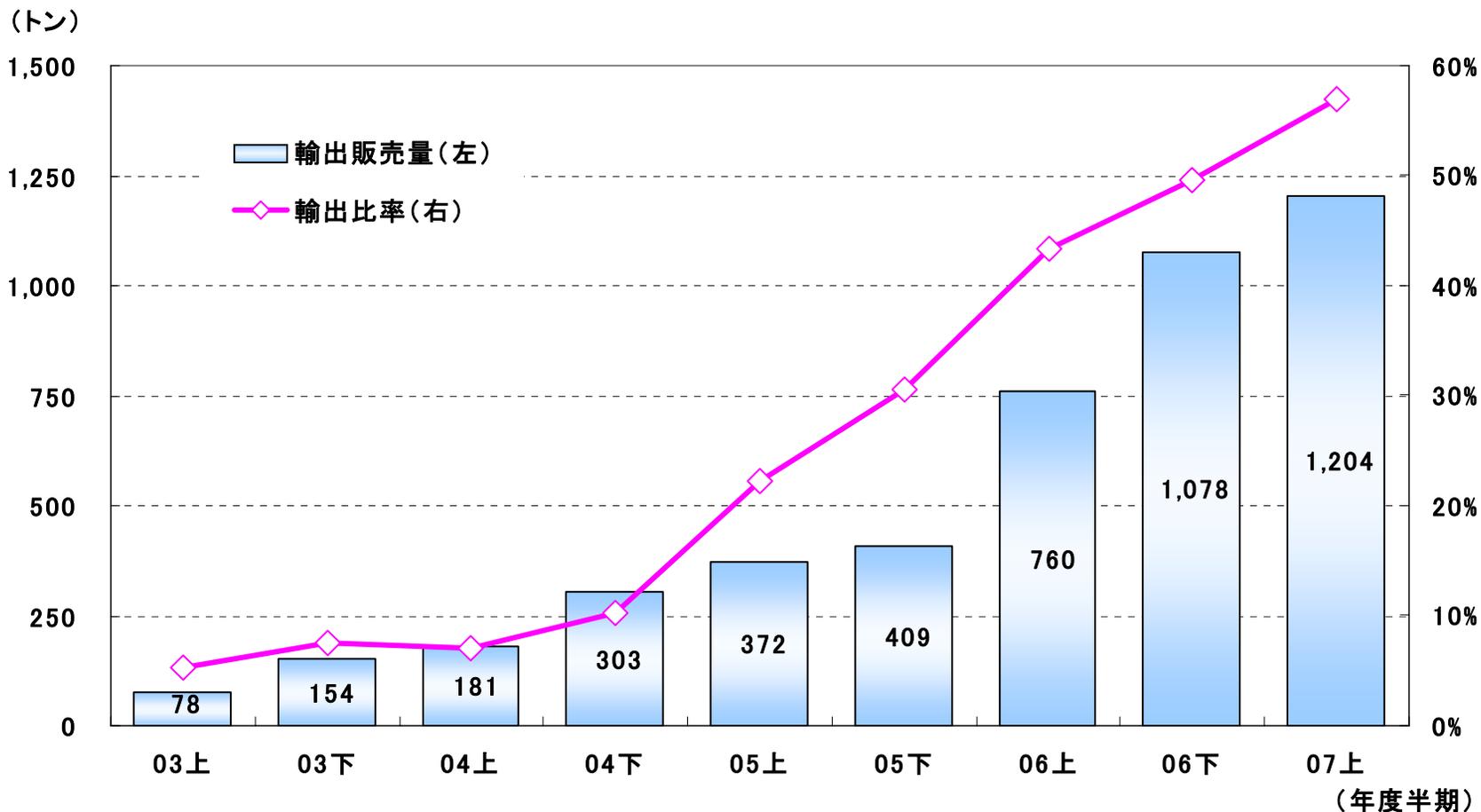
売上高の状況(高機能材部門6分類の売上高構成)

▶耐食・耐熱材の比率が着実に上昇、2007年度上期には56%へ



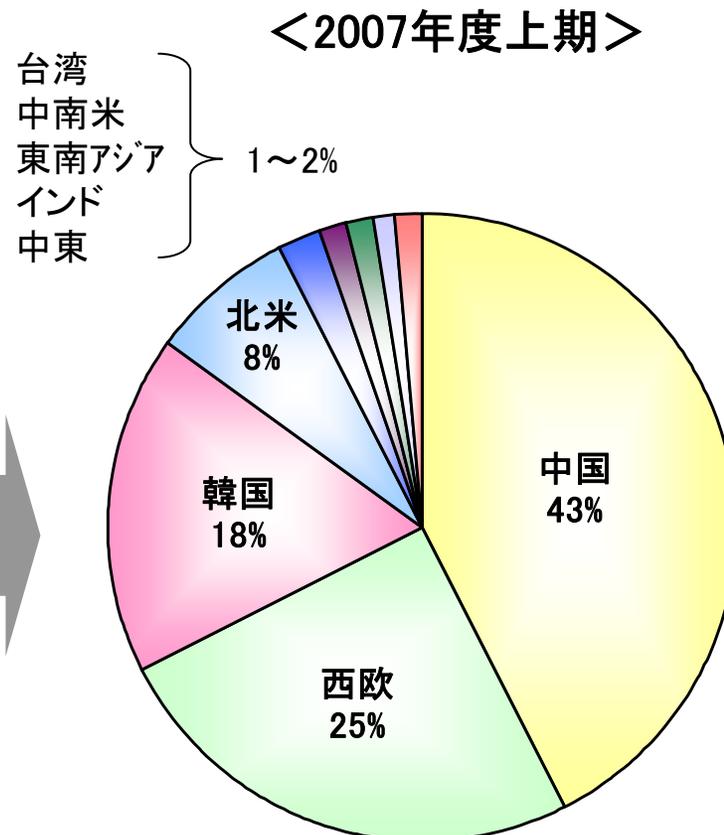
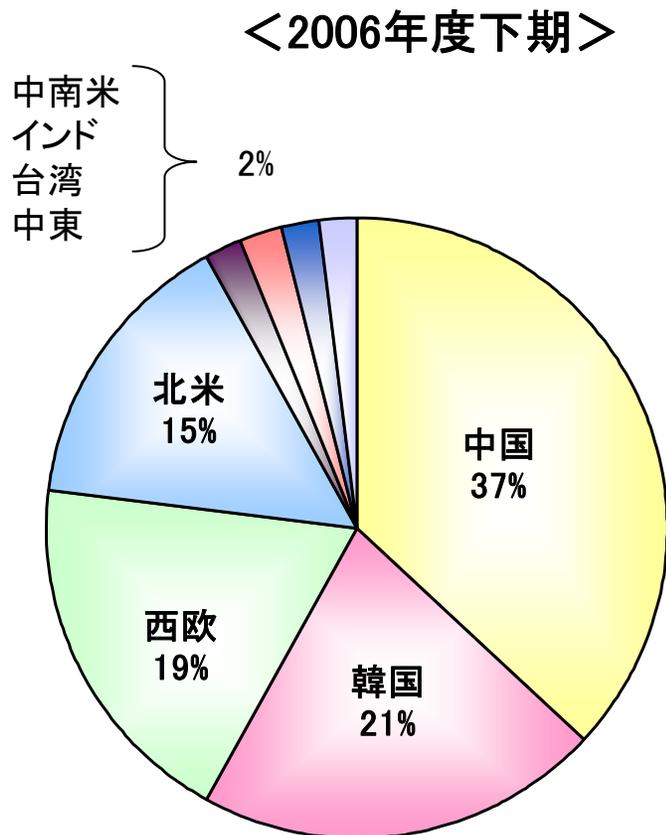
輸出の販売量及び売上高構成比 《高機能材合計～月平均》

- ▶ 売上高の増加基調が続き、輸出構成比は57%まで上昇
- ▶ 買い控えは国内より顕著だったが、新規顧客の受注獲得による効果が上回る



仕向け地別高機能材輸出販売量

▶ 中国・西欧向けのシェアが上昇



中長期的に拡大が見込まれる高機能材マーケット

▶「エネルギー」・「環境」関連需要に重点を置いた取り組み

✓ 中国：熱交換装置、石炭・火力発電用排煙脱硫装置、海水淡水化装置

⇒ スーパーステンレス、ハステロイ、2相ステンレスが増加

✓ 西欧：石油掘削、石油精製、石炭ガス化プラント

⇒ インコロイ825、モネル400、スーパーステンレスの配管用が増加

✓ 現在の注力地域

・インド、アセアン、中東

石油・ガスの掘削・精製プラント／排煙脱硫装置

- ▶ 材料費の急上昇を受けて受注の伸びが期待を下回る
- ▶ 中長期的な需要は根強く、ニッケル価格の安定に伴い受注回復の見込み

＜石油掘削の洋上プラットフォーム＞



＜韓国の排煙脱硫装置＞



苛性ソーダ製造装置の電極

▶世界的な環境への関心の高まりから、純ニッケル板への需要が増大

✓化学繊維・洗剤・酸中和剤等で使用される苛性ソーダ用のプラント

(1) BRICSでの新設・増設が続く

(2) 欧州・中南米では環境対策としての更新が続く

背景：水銀法・アスベスト法→イオン隔膜法へ



苛性ソーダ製造装置

新型軽量航空機ボディパーツ製造金型用材

▶ 足元までの受注は想定ほど伸びなかったが、今後は受注増加が見込まれる

✓ 今中間期は、チタンなど原料の入手難航により、他の部品会社からボーイング社への部品納入が遅延。

～ボーイング社が2008年5月から2008年11月への就航予定延長を決定。

⇒ 国内の主要重工メーカーで金型発注を控える動き。

<ボーイング社787型>



- ・ 世界的に燃費効率の良い新型軽量機材へのモデルチェンジが集中。
～ボーイング社787型に対する航空各社の発注は約700機と高水準。

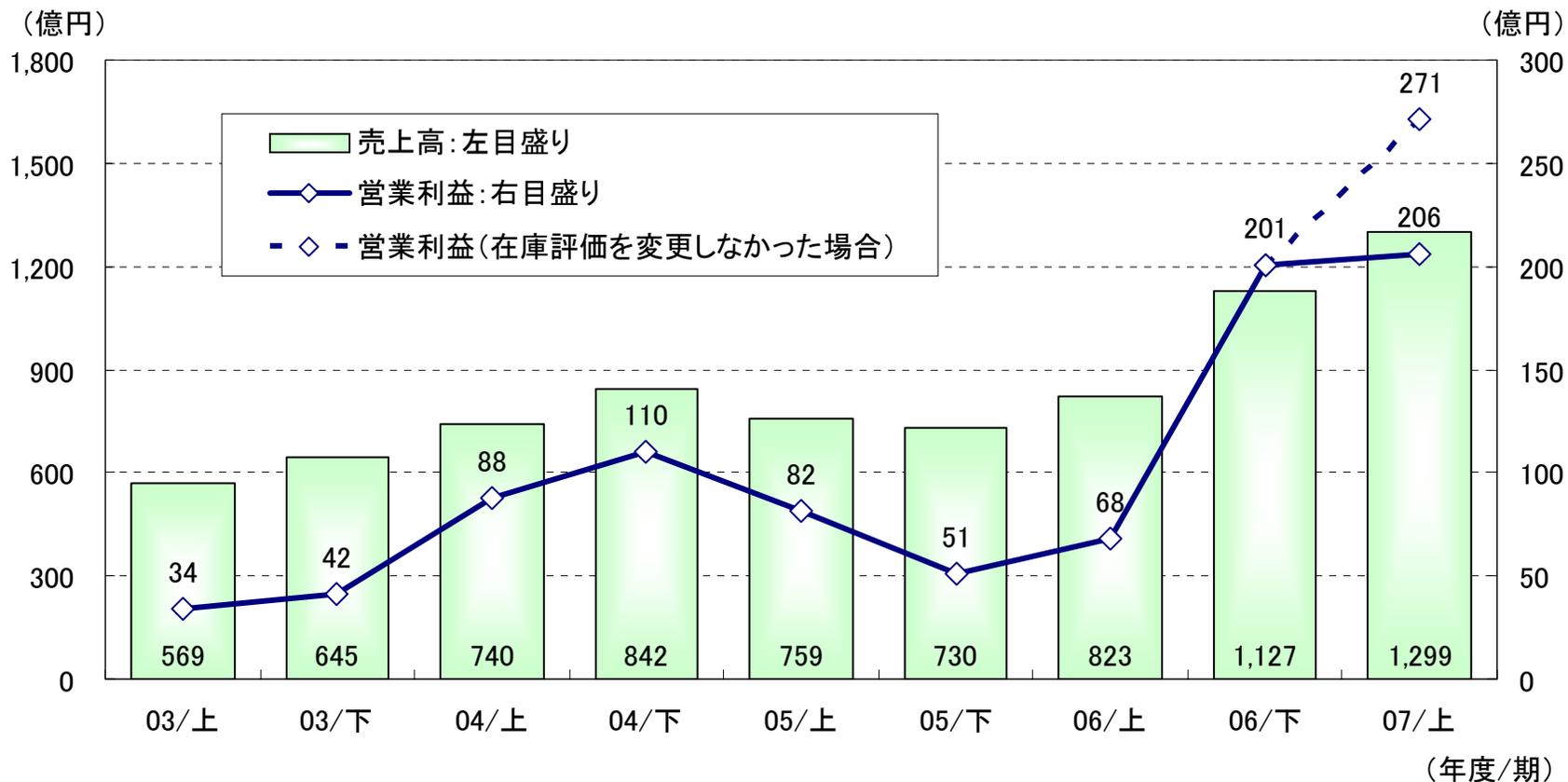
1. 2008年3月期中間決算サマリー

2. 高機能材部門の販売状況

＜参考＞主要データ(連結ベース)

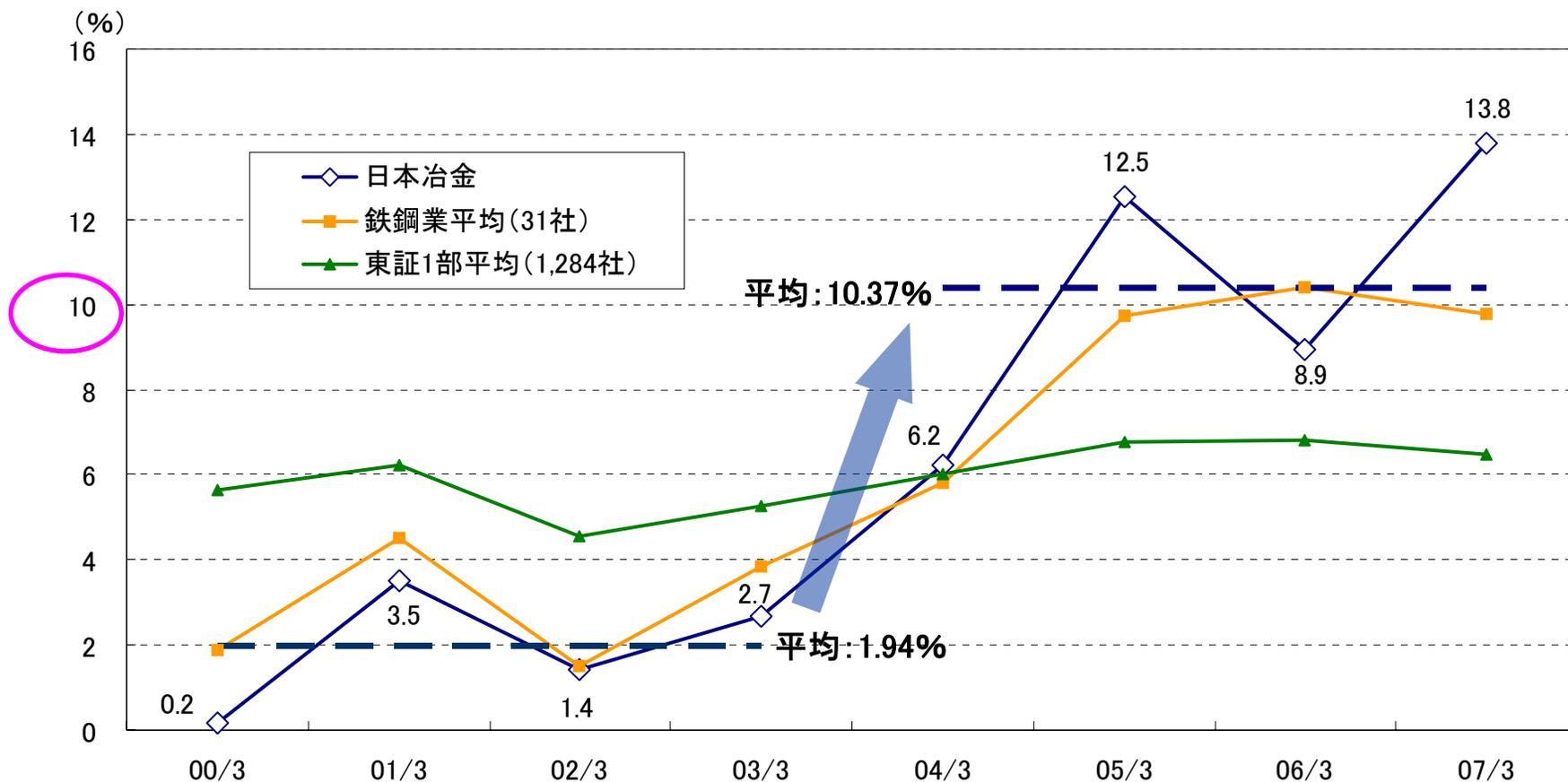
売上高・営業利益

▶ 売上高・営業利益ともに前期を上回る



売上高営業利益率

▶ ニッケルサーチャージの定着などにより大幅な改善



(出所)日経AMSUS。

(注1) 直近8期の売上高営業利益率がある企業のみ。(注2) 鉄鋼業、東証1部平均は単純平均。

(年/月期)

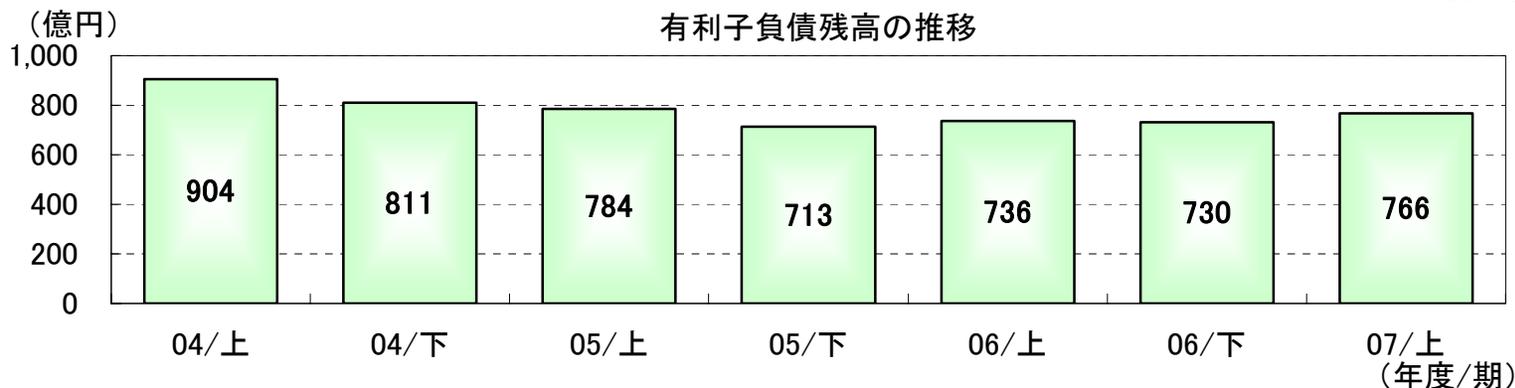
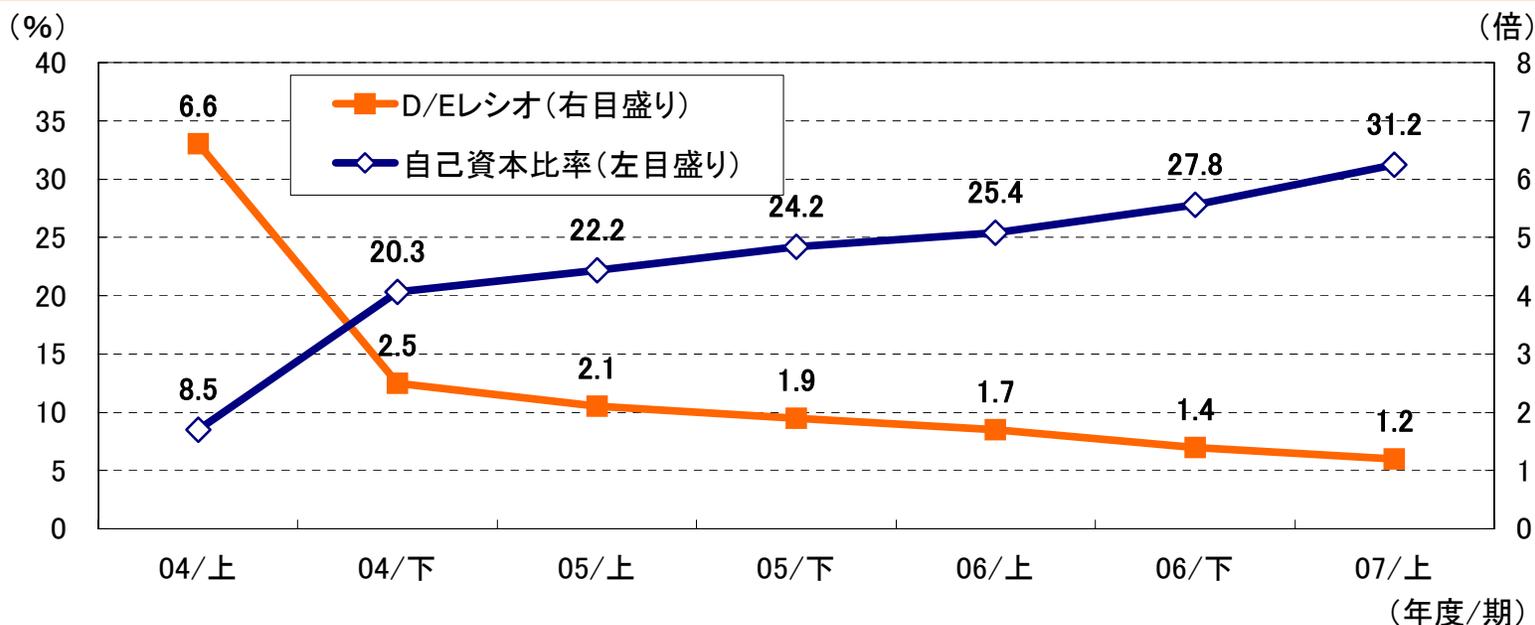
総資産額・ROA

▶ ROAは中計目標の7%を大幅に上回る



有利子負債残高と自己資本比率、D/Eレシオ

▶ 自己資本比率も中計目標の30%を2007年度上期に達成



歴史あるステンレスメーカーから新しいステンレス特殊鋼メーカーへ

日本冶金工業

本資料のいかなる内容も、弊社株式の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料に掲載された計画や見通し、予測等は、現時点で入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。

万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切の責任を負いかねますので、ご承知下さい。

【本件に関するお問い合わせ】

日本冶金工業株式会社 IR事務局

Tel. 03-3273-3613 /

E-MAIL. irjimu@nyk.co.jp